

統計行事

市町村

（四月）	（表名）	（報告期限）
綿織物産額調（特定町村）	三日限	五日限
物價（同）	同日	同日
賃金（同）	同日	同日
人口動態調査票	同日	同日
寒天	拾五日限	同日
學事年報取調條項甲類及諸表	同日	同日
民有森林原野箇所反別	末日限	同日
道路延長幅員分配表	同日	同日
橋梁表	同日	同日
（五月）		
綿織物産額調（特定町村）	三日限	同日

茨城統計（三月號目次）

☆表紙……土浦町龜城公園	〔一〕
卷頭言……	〔一〕
時局の認識を深め 肇國の大策に協力せよ 茨城縣總務部長 清水谷 徹	〔二〕
山形縣視察員來廳—廣島縣視察員來廳	〔三〕
御所、御苑の拜觀	〔四〕
商工業調査集合查閱	〔五〕
實務統計調査の乘	〔六〕
統計主任者異動	〔九〕
農村出産力調査	〔三三〕

統計調査員

（四月）	人口動態調査票	五日限
	春豫想掃立數量	同日
	麥豫想收穫高	廿三日限
	ナタネ作付反別及作柄	同日
（五月）	統計調査員打合會に出席	
	春季作付反別調査實施	
	春豫想掃立數量調査の上報告	二日限
	ナタネ作付反別作柄調査報告	廿日限
	麥豫想收穫高	同日

春の調べ

統計問訊

模範町村	那珂郡芳野村	〔一〇〕
	鹿島郡大谷村	〔一四〕

最近の統計

甘藷が七百五十余萬圓	〔一七〕
縣内昨年の耕地面積	〔一八〕
蒟蒻芋、實棉、薄荷	〔二〇〕
果樹の收穫高	〔二三〕
縣統計課員異動—農林省事務監査	〔三三〕

統計功勞者表彰

表彰された感激集	〔三〇〕
----------	------

各地統計雜信

寄贈圖書	〔三一〕
統計調査員異動	〔三五〕
本誌の面目を一新	〔三八〕
編輯後記	〔三九〕



茨城統計三月號

卷頭言

◆ 肇國の大理想は今や隣邦に及んで新東亞建設の大事業は既に達成の曙光を認めらるゝに至る。慶祝に堪へず。

◆ 十萬の英雄、幾億の國幣、全國民の忍苦、やうやく報いられんとす。聖戰の意義を中外に徹する爲我等は更に一段の自重と努力を拂はねばならぬ。

◆ 冬既に去り陽春至る、働く時である、働かねばならぬ。如何に働き、如何に收穫すべきかは各自の立場によつて異なる。併しその職場に忠ならねばならぬ事だけは共通である。

◆ 紀元の佳節に表彰された統計事務關係者の功勞は大きい。誰もが表彰される程の仕事をしたいものである。不斷の努力と擔まざる意思との報いられない筈はない。

時局の認識を深め

肇國の大策に協力せよ

茨城縣總務部長
茨城縣統計協會々長
清水谷 徹

今般任を本縣總務部長にうけ、統計協會々長に就任致しましたので、此の機會に本誌を通じ縣下の統計事務關係者各位に御挨拶を兼ね、所懐の一端を申述べたいと存じます。

日支事變も既に四閱年の長きに亘り、御稜威の宏大と將兵の忠勇と國民の協力とにより蔣政權は今や全く其の實力を失ひ、新東亞建設に重要な役割を有する新支那中央政權の樹立が目睫の間に迫らんとしつゝあるは誠に御同慶に堪へない次第であります。併し未だ聖戰窮極の目的が成就せられたと申しますには至らず、其の曙光を認めたといふに過ぎないのであります。事變の前途は尙ほ遠慮であります。靜かに思ひを事態の推移に致しますならば、我が國現下の情勢は内外共に依然として非常時態勢にあり、外にあつては國際關係の多岐微妙な經緯と、内に百億を越ゆる未曾有の大豫算を擁して國力の充實、國民生活の安定等寸時も偷安を許さぬものがあり、實に容易ならざるものがあります。而も此の難局に處して愈々國威の宣揚を念とし、國運の伸長を期するには舉國一致、國民一体となつて肇國の大精神を體し國策の遂行に協力しなければならぬと信するのであります。

斯る際に於て益々國力の擴充を圖り、産業の振興を期さうとするには正確な統計の必要な事は今更ら多言を要しない所でありまして、殊に軍事上或ひは國家總力の算出に統計の重要さが倍加されつゝある今日に於てすら往々にして統計に對する認識を誤り、正確な資料の蒐集、圓滑なるべき事務の運行に支障を及ぼす事さへ見聞するのは遺憾に堪へない次第であります。

幸ひ本縣に於ける統計事務は各位の機まざる御努力によつて急速な發展を見、統計先進縣として推されて居ります事は欣快に堪へない所であります。今次事變によりまして統計に對する社會の要望は激増し、従つて各位の事務負擔も繁忙を極めるやうになり、其の責任も亦いよゝ重大性を加へつゝあるものであります。各位がよく國民精神總動員の趣旨を体し不屈不斷の活躍を續けられて居る御勞苦に對しては感激感謝の外はないのであります。各位は何れも其の市町村の中堅であり、指導的立場にあるものと承知して居ります。機會ある毎に統計思想の普及と、一部に今尙ほ殘存する誤りに對する認識の是正に努め實務に對する研究と指導とを怠らぬ様切望して止まぬ次第であります。

終りに臨み光輝ある紀元二千六百年をして彌が上にも意義あらしめ、皇威を伸長し國基を強うし、肇國の大精神を中外に宣揚するために減私奉公、國策に順應して堅忍持久、帝國の重大使命遂行に献身協力せられん事を重ねて御願する次第であります。

山形縣視察員來廳

山形縣統計主事補和合寛氏は本縣統計事務視察の爲、去る三月八日統計課へ來廳し各方面に亙つて視察の後栃木縣へ向つた。

廣島縣視察員來廳

廣島縣總務部調査課屬吉田正人氏は三月七日縣統計課に來廳、統計事務並に統計協會事業等に就き視察の上千葉縣に赴いた。



本年十二月迄の間

御所、御苑の拜觀

昨年、の臨時國勢調査從事者に
差許さるゝ有難き御取圖らひ

昭和十四年臨時國勢調査指導員並に國勢調査員に對し本年
一月より十二月に至る一ケ年を限り、京都御所並に新宿御苑
の拜觀を差許さるべき趣意に内閣統計局長より本縣知事宛通
牒があつたので、縣では一月十二日附を以て各市町村長宛移
牒したが、留意すべき事項は左記の通りである。

一、拜觀願及拜觀者名簿ノ提出

拜觀願(別添書式(一))ハ二通、拜觀者名簿(別添書式(二))ハ五通
(但シ京都御所又ハ新宿御苑何レカ一方ヲ拜觀スル場合ニハ四通)
ヲ市町村長ニ於テ作製縣ニ於テ資格審査ノ上内閣ニ提出スルモノ
トス

拜觀ヲ希望スル日限ハ少クモ十日間以上ノ期間トスルコト、但シ
右日限中特ニ拜觀ヲ希望スル日ヲ附記スルハ差支無之モ遅クモ拜
觀希望日ヨリ二十日以前ニ縣ニ到達スル様提出ノコト

二、拜觀人員

拜觀人員ハ十五名以上ノ團體トスルコト(少數ノ場合他市町村ノ

分ト合シ一團體トスルハ差支無之)
三、拜觀心得

服裝ハ非禮ニ亘ラザル程度(洋服ヲ便利トス、和服ノ場合ハ袴ヲ
着用ノコト)ニシテ履物ハ成ルベク靴又ハ草履ヲ用ヒ齒ノ付キタ
ルモノハ之ヲ避クルコト

拜觀差許サレタル上ハ取消シ又ハ不參無之様留意シ晴雨ニ不拘拜
觀スベキコト

別添書式(一)

京都御所(並ニ新宿御苑)拜觀願

今般元昭和十四年臨時國勢調査指導員並ニ國勢調査員何某外
何名ヨリ左記日限ニ於テ京都御所(並ニ新宿御苑)拜觀ノ儀申
出候條御許可相成候様御配慮相煩度別紙名簿相添へ此段願上
候也

拜觀日限 自 至 月 月 日 日 ノ間

昭和十五年

月 日

何縣何郡何村長 何

某印

内閣統計局長 川島孝彦殿
別添書式(二)

京都御所(並ニ新宿御苑)拜觀者名簿

何縣 何郡 何村
引卒者 元昭和十四年臨時國勢調査指導員 何
拜觀者 同 何
元昭和十四年臨時國勢調査員 何

何 何 何 何
某 某 某 某

商工業調査集合査閱

昭和十四年末現在を以て實施せられた、工業及び商業調査に關しては本年最初の調査なので、之が調査の萬全を期す
る爲縣では左記日割に依つて集合査閱の上取纏めた。尙ほ商業調査に就ては當業者より市町村長に提出すべき期日は
二月末日迄だが事務の都合上工業調査と同時に査閱を施行した。

北	猿	結	眞	筑	新	稻	行	鹿	多	久	那	西	東	日	水
相															
馬	島	城	壁	波	治	敷	方	島	賀	慈	河	城	立	戶	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十	九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
一	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
取	境	結	下	谷	土	農	業	生	鮮	多	久	茨	全	茨	茨
手	財	城	郡	田	浦	取	所	生	田	賀	慈	間	全	茨	茨
町	務	郡	財	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
自	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務
治	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出	出
治	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
會	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館	館



實務
場道

統計調査の葉

(29)

統計調査の春は一年の基礎をなすものである。勿論各季とも大切には相違ないが、春季調査の粗漏なものはその後、如何に努力しても土臺の不完全な上へ家を建てるやうなもので、決してよい結果は得られない。市町村統計主任はよく此の点を考へて調査員の指導をし、各調査員も亦注意して作付反別調査原簿などの加除を厳密にし累を後に及ぼさない様に心掛けねばならぬ。

未だ全部終了した譯ではないが昨年の事務監査の結果は従來に比較して非常に成績がよい様である。事變關係で色々仕事も増し面倒にもなつてゐるのに成績がよいのは誠に喜ばしい次第では統計事務關係者は勿論一般に事變

に對する認識が深められた一證左で、一億一心學國團結の實が收められてゆく現はれとして心強い限りである。今後とも一層遺憾ない事を期したいものである。

公私有林野人工造林

(市町村報告期三月末日限)

人工造林とは人工を以て新植、補植するものを謂ひ林野にあらざる地に新造林を爲す場合及び伐採跡地又は原野に造林する場合も含み、播種せるものをも含めて、調査すべきであります。新植として調査すべきものは樹數の外に面積をも調査するのであります。補植は本數のみを調査するのであります。

公私有林野天然造林

(市町村報告期三月末日限)

天然造林とは下種又は萌芽に依つて林相を成すものを謂ひ、下種とは母樹より落ちた種子が発芽し、自然に林相を成すもので、萌芽とは潤葉樹を伐採した切株より稚樹が発生して林を成すものを謂ふのであります。伐採跡地の天然造林とは其の年伐採したる箇所を其の儘として置き、切株から萌芽し成林見込確實なものを謂ふのであります。ナラ、クヌギ等の如きは切株より萌芽するのを成林させるのであるから等はたとひ未だ林相はなさなくとも成林の見込確實な限り天然造林として計上すべきであります。但し此の場合於ては其の年潤葉樹に伐採面積と對照し、伐採面積より多くなる筈がないのであります。それから無立木地の天然造林でありますが無立木地とは伐採跡地以外の地に於て、下種とか其の他の

作用に依り萌芽し成林の見込確實となつたものを謂ふもので、針葉樹に於て原野、海邊等に幾分あるけれども、本縣に於ては殆んどないのであります。本縣に注意を願ひたいのであります。

公私有林伐採表に就いて

(市町村報告期三月末日限)

本表は毎年の伐採面積と其の樹種別伐採の數量價額を調査するものであります。伐採面積は之を用材、薪炭材、竹材に別ち、用材は更に針葉樹、潤葉樹、針潤混濁樹に別ち、所有關係は林野に關する他の諸表と異なり單に公有社寺有、私有の區別に依るのであります。同一林野の伐採面積中用材、薪炭材等二種以上を包含する場合は各其の割合に依つて見積り區別計上せられたのであります。又伐採樹木は薪炭材以外は總て用材として調査せられ、用材として伐採したもの、枝條根株を薪炭用に供する場合の伐採面積は用材の

新植とは伐採跡地又は原野などに行はるべきは勿論でありまして、其の多くは伐採跡地を主としますから普通の場合新植面積は大体伐採面積より天然造林面積を差引いたるものと略同一なるべきものが普通であります。原野畑地等に植林ありし爲新植面積が多い場合又は之に反し少い場合には、其の旨備考に説明を要するのであります。尙補植は人工造林のみを調査するもので、曩年新植したるもの中枯死又は活着不良のものを補ふものでありまして、前年の活着状態により多少の相違はあります。但し大抵前年新植の一割内外が普通であります。

若し其の割合を越ゆる様な場合には之亦備考に明記を要します。それから播種したものは播種面積を新植面積として計上し新植本數には計上せず、播種せる數量を以て計上すべきであります。

伐採面積として計上するのですが、枝條根株の數量價額は薪炭材に計上することになつて居ります。伐採面積調査の範圍は樹林状態を爲せる林野の伐採面積の全部を調査するのが原則であります。又点狀擇伐(拔伐)も一つの伐採であるが、其の伐採面積の算定は困難であるばかりでなく、尙樹林としての面積は殘存するのだから、此の場合には伐採面積に計上する要はありません。然し伐採數量と價額は調査することになつて居ります。尙此の場合には備考欄に其の旨説明せられたい。年々点狀擇伐したときは最後に於て全部を伐採したるときに其の全面積を調査計上し、従つて其の年以前の点狀擇伐面積も合算することになるのであります。尙竹林に就いては拔伐でも伐採でも伐採の点領面積を調査するのであります。注意せられたいのです。点領面積とは林相を爲せる總面積を樹數で除した商を謂ひ、必ずしも樹木の被覆面積と同

一でないのであります。

柵に就いては、林地に在るものは面積をも調査し、林地以外のものに對しては數量及價額のみを調査し、備考に其の旨説明を要するのであります。又一反歩當材積を算出して其の過少のものに就つては之が事由を説明せられたる。

尙單位は本表に限り山元相場乃ち伐り賃を含まない立木のまゝ賣買するものに依られたるのであります。それから一石とは、尺角長さ十尺に相當するもの乃ち實積十立方尺のことです。

参考

一、用材の材積を伐採せる丸形より計算する方式左の如し

(長さノ中央ノ直徑ニ乗)×(圓積率0.7854)×伐採材ノ長さ+10立方尺ニ材積(石)例 (20尺ノ中央ヲ3尺トセバ)3尺ノニ乗×0.7854×20尺+10=14石1372
二、立木の材積計算方式
(立木ノ田道直徑ノニ乗)×圓積率0.7854

ある。尙上級の道路(國道又は縣道)と下級の道路(市又は町村道)と路線が重複する場合は其の重複する部分は上級の道路として取扱ふことになつて居る(道路法十六條)から其の部分だけは市道、町村道延長に算入しないのである。幅員別内譯欄の有効幅員とは路線の中最狭の地点に於ける道路の側溝を除いた部分を謂ふのであつて右幅員によつてその路線の幅員と夫々該當欄に記入するのである。以上述べた所に依つて製表したならば次の点を一應吟味して頂き度い。本年の路線數及び延長と前年のそれ等に於て不合理な移動なきや、あつた場合にはその理由を備考に記入せられ度いこと。

主用延長=道路延長+陸道延長+橋梁延長
主用延長内譯
長十渡船場延長=有効7.5米以上+6.5米以上+5米以上+4.5米以上+3.6米以上+2.6米以下
主用延長幅員別内譯

×(薪ノ割キ)×(薪ノ割キ)薪ノ割キ(一割ノ薪)+10立方尺ニ材積ノ近數値
數系は創刊號三十八頁に掲載しあり。

三、薪炭材一柵とは長さ二尺のものを高さ五尺幅十尺に積立てたるもの、乃ち層積百立方尺を云ふのであります。そして此の柵の層積には間隙がありまので其の實積は三割を減すべきものと見做して一柵は用材の七石に相當するものです。薪炭材一柵を薪としたる場合は大体決の通り。

道路表

三尺束	百束位
二尺五寸束	百四十束位
二尺三寸束	百七十束位
二尺束	二百二十束位
一尺八寸束	二百七十束位

本表は三月三十一日現在に於ける市道若くは町村道の路線數、主用延長及び其の内譯である道路、橋梁、陸道、渡船場の延長(但し橋梁、渡船場にありては箇所數をも側書すること)並に幅

となる筈であるから一致しない場合は内容再調の上訂正一致せしめられ度いこと。

橋渠表

(市町村報告期四月末日限)

本表も道路表と同様三月三十一日現在に於ける管理所屬の市町村に於て、その延長、箇所數、橋種を調査四月末日迄に報告するのである。橋種には材質を冠すること、例へば木桁橋或は鐵構橋と記載するのである。長さ二米半未満のもの土厚一米以上のものは算入せざること、之れは技術的に見て橋梁とは謂はない。暗梁又は排水梁、溝橋と稱するもので町村道には斯うしたものが多いことと思はれるから御注意願ひ度い。橋長は蹴込石又は蹴込板の内端間の長によるのである。一昨年は水害の爲め流失、破壊されたものもあり、又昨年は復舊等もあり相當前年と移動のある事と思はれるから誤調等のない様慎重に調査製表せられ度い。

員別の内譯を調査各該當欄に記載の上四月末日迄に報告するのである。道路法第三十條に依れば管理者(市町村長)は其の管理に屬する道路の臺帳を調製することになつて居るから。右に依り調査して差支ない譯である。本表に道路とは道路法十三條及び十四條に依り市長、町村長の認定したるものを謂ふのであつて林道耕作等の如く組合其の他の團體に於て管理するものは公道であつても道路法に依らないのであるから本表に掲載すべきではない、従つて私道も掲上すべきでない事は勿論である。次に市、町村に於て特に必要のある場合、道路法第十五條に依り市、町村外に路線を認定した場合(例へば火葬場、塵埃場等を経営する場合それに至る路線)は管理所屬の市、町村に於て調査掲上するのである。又既に路線の認定あるもので現實にはその路線の存在はななくとも將來に於て着工完成するものは道路として調査掲上するので

統計主任者異動

(上へ新任括弧内へ舊)

昭和十五年一月十三日	眞壁郡勝波ノ江村
内田 定雄	(廣瀬 末吉)
全	一月十日 北相馬郡東文間村
齊藤 亮平	(坂本 惠)
全	一月十五日 猿島郡七重村
眞中 正一郎	(花島常次郎)
全	二月二日 西茨城郡南山内村
原田 茂	(笹沼 秀信)
全	一月六日 西茨城郡岩瀬町
友常 幸一	(倉品 六衛)
全	二月十六日 眞壁郡村田村
松本 肇	(渡邊唯一郎)
全	二月二十日 新治郡田余村
遠藤 宗仁	(橋本誠之助)
全	二月十六日 水戸市
關 信	(加倉井 仁)
全	一月二十八日 行方郡太田村
新堀 清兵衛	(萩原 兵惠)
全	一月九日 眞壁郡竹島村
早瀬 喜善	(大山久三郎)

統計優良町村
視察記
—[30]—

僅か十年の努力で
模範となつた芳野村

調査員の用具備品に至るまで
整然として非点がない

那珂郡芳野村は同郡の中央に位置し水戸市とは那珂川を距て、僅かに三里、飯田、鴻巣、戸崎の三字から成り、土地は平坦で山嶽はなく戸崎の一部に丘があるだけの村である。東北は菅谷村、木崎村に接し、北は瓜連町に、南は五臺村、國田村に、西は戸多村に連なつてゐる。村内を三本の縣道が通じて居り、水郡線常陸鴻巣驛があつて貨客の運輸に恵まれて居り、田百九十六町二反歩、畑五百三十三町八反歩、山林四百十九町二反歩、原野二十九町七反歩を有する純農村である

人口と役場

芳野村の人口は現住男一千四百七十三人、女一千六百八十八人、計三千六百六十一人で、本籍人口は千四百三十一人多い

四千五百九十二人である。戸数は六百二十七戸で一戸當り現住人口は五、〇四人になつてゐるが、之を職業別に見れば農業五百七十九戸、商業二十戸、工業九戸、公務自由業十戸、交通業四戸、その他五戸である。芳野村役場の陣容を見れば村長宮本正木氏は同村の名門で先考逸三氏も地方に知られた政友會の重鎮で代議士に選ばれた事もあるが、正木氏も亦其の衣鉢を繼いで現に縣會議員に推され副議長の要職にあり、村長も既に三期に及んでゐる。助役大和田登氏は一昨年就任して兵事學事を擔任し、收入役平松春吉氏は三期其の職にある篤實な人、戸籍主任會澤壽貞氏は在職十一年、人口統計、産業組合の事務を分擔し、稅務、土木、社會係主任田村重明氏は庶務をも手傳つて居り、最も長い十五年といふ勤続者である。統計衛生主任寺門一郎氏は役場生活こそ僅か三年では

あるが青年吏員の熱により、前任者綿引善雄氏が改善して基礎を築いた同村統計事務の堅壘を守り、更に着々として良い方に導いてゐる。勸業庶務主任の寺門武男氏は應召出征して名譽の戦傷を負つた傷痍軍人で職業紹介事務をも分擔してゐる。主として、農會、産業組合の仕事を手采する書記山崎俊信氏は在職三年目で勸業方面にも活躍してゐる

主要農産物

主要農産物は米麥であるが殊に麥酒麥は作付反別五十二町歩で郡内町村中最廣面積を占めてゐる。昭和十三年度の調査による芳野村主要農産物を記せば左の通りである。

- 水稻十一萬三千二十二圓△陸稻十萬五千六百九十九圓△大麥五萬四千六百七十五圓△小麥十三萬七千五百四十四圓△稈麥一千六百九十五圓△大豆一萬三千八百三十二圓△小豆一千五百八十圓△粟一千七百四十八圓△菜種四千四百圓△胡麻四千七百四圓△甘藷八千八百八十八



眞實明(前)向つて右から(寺門書記・宮本村長・平松收入役) 眞實明(前)向つて右から(寺門書記・宮本村長・平松收入役)

六圓△葉煙草一萬四千八百八十三圓△春蘭三千六百九圓△夏秋蘭四千七百九十九圓

統計調査員

同村の統計調査區は十七區に分れ世帯數の一番多いものは六十三、又最も少いのは十七といふ風で、受持耕地面積から見ても最も狭いのは二十一町五反余歩、一番廣いのは七十町四反余歩といつた具合であるが耕地状況や調査の難易等によつて區分されたものである。現調査員を列記すれば

受持區	勤続年數	氏名	(年齢)
第一	六年	寺門 恒三	(四八)
第二	四年	小林 芳雄	(三四)
第三		應召欠員	
第四	十一年	大森 新松	(五六)
第五	九年	小林 太一	(五〇)
第六	十五年	大和田 龜吉	(七二)
第七	七年	檜山 常藏	(三七)
第八	六年	澤幡 勝一	(四一)

第九	十一年	宮本 芳之介	(四三)
第十	二年	古橋 豊重	(三〇)
第十一	三年	萩谷 彦一	(四二)
第十二		應召 欠員	(四二)
第十三	八年	高島 千藏	(四二)
第十四	七年	高畑 爲之	(三五)
第十五	三年	綿引 信	(二六)
第十六	四年	田口 金松	(六四)
第十七	九年	檜山 光正	(三七)

右の如く應召欠員中の第三、第十二調査區は寺門主任が調査を擔任してゐる。

周到な指導

昭和四、五年頃迄那珂郡の統計不良町村といへば先づ第一に芳野村に指を屈したものである。それが僅か十年足らずして模範村として遠近から視察者が次々に來る様になつたのは何の爲だらうか、それは前統計主任綿引善雄氏が就任し二十才から二十七才まで青年の意氣と熱とによつて寢食を忘れて改革に當り調査員を督勵鞭撻した賜でバトンを渡された、寺門主任が引續き調査員諸君と協力して銃後の統計報國に邁進してゐる。統計調査員手當は一人平均八圓で、その外に米

枝振りである、舊家鈴木秀氏の邸内にあるものだが、この松こそ八幡太郎義家が奥州への道すがら此の地に手植したものとして近郷に知られた名木である。又同村飯田共同墓地には藤田東湖祖先の墓があるが餘り世に知られて居ないので一昨年在郷軍人分會が建碑して近世英傑の祖先の靈域を顯頌する

生産統計手當一人平均四圓を合せ平均十二圓で、調査員手當としては必ずしも多額の方ではないが、それでも統計費は三百四十七圓で總豫算二萬三千二百八十圓に比し縣下平均から見ても少い方ではないのは調査區が多い故であらう。同村調査員會合は年五回位であるが其の都度出席手當を五十錢宛支給してゐる。同村では米生産調査に對して補助票、各季集計表、小字別水稻作付反別調査票、字別集計票、字圖から特に考案した狀差、書類箱を各調査員に配給して書類の散逸を防ぎ整理の便を圖つて居る。斯ういふ行届いた村當局の指導があれはこそ各調査員も自然迂濶にしては居られず色々工夫して調査の萬全を期する様になり彌々成績をあげる様になるといふものである。されば昨年の十月中には縣下の東茨城郡山根村新治郡新治村を始め遠くは新潟縣からまで視察に來るといふ次第で、宮本村長などは斯う瀨繁に來られては接待費も容易でないし、仕事の能率にも影響すると嬉しい悲鳴をあげてゐた程である。

二つの史蹟

水戸、大宮線縣道を走るバスを降りて村役場へ行く途中の左手に一本の松がある。樹齡何百年を経たものか實に見事なことにした。記者は役場で書類等の視察を終り宮本村長等と懇談し寺門主任等は將來益々事變下の銃後奉公に努力すると共に資料調整に重要役割を演ずる統計事務の向上改善を契ひ合ひ丁度宮本村長が縣會へ出席する事刻になつたので相携えて芳野村を辭した。

農村出産力調査

上津村で実施

人口政策に關する基礎資料作成の爲人口問題研究所に於て一月二十日現在を以て農村出産力を調査することとなり、本縣に於ては新治郡上大津村が指定され一月十日左右田研究官が來縣し縣及び上大津村に至り種々打合を爲し歸水した。

上大津村に於ては十六名の調査員、五名の係員、主任(助役)副主任(統計主任)を囑託し一月十八日村役場に於て之が事務打合會を爲し縣よりは菊池陽が出席した。

右調査は一月二十日現在を以て正確なる調査を遂げたる結果九九一通の蒐集を見、一月二十六日縣へ提出したので内容審査の上同二十七日人口問題研究所に進達した。之が調査事項は左の通り。

△住所△氏名△夫妻の出生年月日△結婚年月△出産兒の數△職業△教育程度△收入平均月額△農業者の區別△耕作反別△國稅營業稅納稅額△出産兒の出産年月日△出生兒の死亡せる場合の年月



郡内一の不良村が

努力のお蔭で模範村

豊田主任のたゆまざる奮闘

村内の概要

地勢は平坦で耕地面積は田二百七十五町七反歩、畑九百七十二町六反歩を有し、戸數九百三十五戸、現住人口は男二千五百五十三人、女二千八百三十人、計五千三百八十三人で比較的大きな村であるが、其の殆んど全部が農業經營に従事し自作農二百二十六戸、自作兼小作二百三十九戸、小作二百二十三戸といった状態で副業に養蠶を営む者二百四十六戸、林業を営む者十五戸、水産業に従事するもの二十戸、工業を営むもの五戸、其の他十六戸、商業に従事するもの四十五戸である

主要農産物

鹿島郡大谷村といへば鹿島郡切つての不良村で統計事務監査がある度に『大谷村さへ改善され、ば鹿島郡の成績は良くなるのだが』と嘆聲を聞いたものである。大谷村は東南に諏訪村、徳宿村、西に沼前村、北は夏海村、沼沼に面し東茨城郡石崎村と相對して居り、東西一里二十八町、南北一里十五町、造谷、鹿田、田崎、上太田、下太田、子生、玉田の七大字から成つてゐる純農村で、縣道は磯濱、鉾田線が東部の子生を通り、下太田、鉾田線は村の中央を走り、下太田、小鶴線が田崎地内を走り、玉田、小鶴線は村の稍中央部を玉田から造谷、鹿田を貫通して居る外に村道は縦横に村内に通じてゐるといへば非常に便利な様だが、現に記者が視察に行つたのは風雨の強かつた日であるが水戸から大貫へ行くと大谷村役場前を通る乗合自動車の連絡は二時間以上待たねばならぬ始末といつた不便な所である。

従つて産業といへば農業に限られた様なもので生産物は若干の林産物、木炭や水産物があるにはあるが木炭を除いては殆んど問題にならない程度のもので、主要なものをあげれば

水粳二十三萬一千七百二十圓 △水糯一萬一千八百五十圓 △陸粳一萬九千八百三十圓 △陸糯九萬九千九百四十五圓 △大麥九萬二千四百十九圓 △稈麥四千七百三十一圓 △小麥二十萬九千二百八十八圓 △大豆一萬六千六百二十二圓 △小豆二千二百六十六圓 △胡瓜四百二十八圓 △白瓜三百五十二圓 △南瓜一千四百八十三圓 △西瓜五萬二千四百六十五圓 △甜瓜百七十五圓 △茄子一千九百九十四圓 △大根九千四百五十五圓 △蕪苳二百六十四圓 △人参二千八十一圓 △粟二千四百四十四圓 △玉蜀黍二千五百三十八圓 △蕎麥一千三百八十四圓 △甘藷六萬六千九百三十一圓 △馬鈴薯百三十二圓 △菜種二萬六千五百九十五圓 △胡麻七千二百圓 △蒟蒻芋一千八百圓 △豌豆百八十九圓 △蠶豆百二十圓 △稷元豆四百廿八圓 △牛蒡四千七百四十六圓 △里芋三千二百二十圓 △葱一千七百四十八圓 △漬菜三千八百廿三圓 △烟草一萬五千四百五十六圓 △春蘭四萬四千圓 △夏秋蘭五萬八千九百九十六圓で、この外に農家の副業として飼育される牛百二十二頭、馬六十頭、豚六百四十四頭、鶏八千七百一羽の産卵一萬四千四百四十五圓等があげられてゐる。

村役場の人々

邊陲の地にあり乍ら大谷村役場は新様式を採入れたハイカ

ラなものである。事務室はいふに及ばず應接室の調度なども整つてゐる。それだけ村の裕福な事を察する事が出来る。村長皆藤彦左衛門氏は郡内にきこえた舊家で本年五十八才、昭和七年就任以來鋭意村民の福利増進に精進してゐるので信望が極めて厚い。村長を援ける助役田崎興氏は一昨年の就任、収入役川澄久市氏は昭和九年に其の椅子に就いたもので、最年長の六十九才といふ、書記石崎留次郎氏は明治三十五年以來の活字引として庶務、戸籍、社會を受持ち、兵事、社會、更生、土木を擔任する鬼澤源藏氏は勤續十二年、學事社會を分擔する、佐藤末吉氏は六十三才といふ老練家である。大谷村の統計事務を今日の様に立派なものに仕立てたのは主任豊田保行氏の力によるといつても過言でなく、三十八といふ働き盛りだけにどんな面倒な仕事でも晝夜の別なく精勵して、會つての不良村をして今日の聲名を誇はれるに導いた努力に對しては自ら頭の下る感を抱かしめる。實際小票やその他の書類の整理などは記者が今迄に見た何れの町村のものよりも整頓されてゐるといつても差支あるまい。豊田氏は忙しい統計事務のほかには戸籍、庶務の仕事も分擔してゐる。稅務主任の藤枝弘氏は昭和九年就任した青年吏員として大いに活躍し文書は昨年就任した雇宮内政雄氏が擔任してゐる。

統計調査員

大谷村は前にも書いた様に比較的廣い面積を有してゐるの
で調査區も十九區に分れてゐる。今その分擔を掲げれば

調査區	勤続年數	氏名	年齢
一	八年十一月	酒井 憲	(五〇)
二	全	米川 誠一	(五一)
三	全	藤枝 善弘	(四四)
四	全	皆藤 源治	(三三)
五	全	内山 秀雄	(三七)
六	全	川澄 信雄	(四三)
七	全	川澄 健夫	(四三)
八	全	江沼 仁三郎	(五三)
九	全	小沼 弘義	(四六)
十	全	田崎 興	(五六)
十一	全	井川 都六	(五八)
十二	全	石崎 一郎	(三七)
十三	全	龜山 進	(三五)
十四	全	白田 幹	(四五)
十五	四年十月	井川 清正	(五〇)
十六	二年十月	小沼 武之輔	(三八)
十七	一年十月	山口 俊	(四〇)

十八 八年十一月 小沼 利雄 (三六)

十九 一年十月 吉田 誠壽 (四八)

此の表を見ても判る様に同村の調査員は何れも數年間統計事務を鍛錬した手腕家揃ひで、豊田主任指導のもとに着實眞面目な仕事振りで記者が視察に行つた日も風雨を冒して役場に參集して打合懇談をするといふ熱心さである。皆藤村長なども統計調査員の眞剣さに打たれ、總豫算四萬五千圓のうち統計費は五百二十一圓を割き、調査員手當は一八十五圓、そのほかに米生産統計手當五圓を給し、統計事務の刷新向上を圖るには先進地の視察に如くものはないと千葉縣や東京へ調査員を派遣してゐるが、今後も出来るだけ毎年調査員の視察を實行して奨励したいといつてゐる。同村の統計事務が優良な成績を収め書類等の整然たる事は前にも記したが、之は豊田主任の熱心さばかりでなく調査員が統計の重要性を認識して仕事に精勵してゐるからで、特に家畜調査にまで小票を利用してゐる点などは他町村の参考としてよい所であらう。同村から出征した戦歿英靈の墓參もし、巖島神社や楠木神社などにも參詣したいと思つたのだが何しろ風雨はひどいしバスの時間は切迫するし止むなく果さずには歸途についた。

最近の統計



昨年中縣下の食用農産物

甘藷が大關で七百五十余萬圓

總額は一千六百三十二萬圓を越ゆ

昭和十四年に於ける縣下の食用農産物(大豆、小豆、粟、黍、玉蜀黍、蕎麥、甘藷、甘藷切干、馬鈴薯)の作付反別は
三萬九千八百六十一町二反歩で、その生産總額は一千六百三十二萬五千六百四十八圓である。生産額を種類別に見れば

- 甘藷 七百五十四萬二千七百四十二圓(五千二百七十七萬九千三百四十二貫)
- 大豆 三百六十五萬四百四十圓(十二萬一千三百三十石)
- 甘藷切干 四百四十萬九千二百五十二圓(二百九十三萬七千九百七十七貫)
- 馬鈴薯 四百四十二萬五千六百六十七圓(七百九十三萬七千九百一十一貫)
- 蕎麥 八十二萬五千五百八十三圓(四萬六百三十三石)
- 粟 五十九萬二千九百二十五圓(一萬六千二百二十五石)

萬二千九百七十四圓(二萬九千三百八十九石)△玉蜀黍 三十萬六千五百七十四圓(二萬一千九百四十一石)△黍 五千八百八十五圓(三百十九石)○稗 五千六百六圓(四百三十三石)

の順序で黍及び稗の五千余圓を除いては孰れも三十萬圓を越え、之を前年に比すれば作付反別に於て米麥等主要食用への轉換に依り一千六十二町八反歩(一分六厘)を減じたが價額に於ては六百九十二萬四千七百六十五圓(七割二分七厘)の増加を示した。之は前年は未曾有の水害の爲收穫が著しく減少したのに反し昨年は氣候が順調だったので増收したのと價額の騰貴したのに依るものである。尙ほ種類別に作付反別、收穫

高、價額を前年に對比すれば次の通りである。(△印は減)

種別	作付反別	收穫高	價額	前年=比シ増減
大豆	一五、五九、四反	三三、三〇石	三、六〇、二四〇圓	△一〇〇、五反
小豆	二、四〇三反	二六、三三五	五九、二九五	△一〇、八反
アビ	一、七六、三四〇	二九、六九九	五二、九五四	△一〇、八反
ヒビ	一、九〇	四三、三九	八二、五〇六	△一〇、八反
キ	一、三三、二二	二二、九二	三〇、六五四	△一〇、八反
トウモロコシ	一、三三、二二	四〇、六三〇	五三、五五八	△一〇、八反
ソウマイ	一、三三、二二	四〇、六三〇	五三、五五八	△一〇、八反
サツマイモ	一、三三、二二	四〇、六三〇	五三、五五八	△一〇、八反
ジャガイモ	一、三三、二二	四〇、六三〇	五三、五五八	△一〇、八反
計	二〇、六六、二	七、九七、九二	一、四四、一六七	△一〇、八反

縣内昨年の耕地面積は 二十一萬三千餘町歩

總面積で一千七百町歩の増加

畑の開墾擴張が斷然多い

昭和十四年末現在に於ける本縣の耕地面積は二十二萬三千九百四十四町歩で、畑別に觀れば田九萬六千三百七十町歩六反、畑十二萬七千五百七十三町四反で、之を前年に比すれば

總面積に於て一千七百八十一町(零分八厘)を、田に於て五百六十四町三反(分零五厘)を、畑に於ては一千二百十六町七反(零分九厘)を孰れも増加した。

尙ほ耕地面積昭和十四年中に於ける移動を見るに増加面積二千四百二十六町九反歩、内擴張二千三百八十三町歩(九割八分二厘)實測の結果に依る増加四十三町九反(一分八厘)減少面積は六百九十三町五反である。内潰廢したるもの六百四十四町八反(九割二分九厘)實測の結果に依る減少四十八町七反(七分一厘)である。之を田畑に分てば

増	減	實測増	實測減
田	七三、三三反	三三、二二	二六、八〇
畑	一、六〇、八	三三、二二	一七、一
増	三、三、三	三、三、三	三、三、三

で、更に擴張潰廢を種類別に觀れば

擴		張		潰		廢	
開墾	田	田	畑	田	畑	田	畑
荒地復舊	三三、三	五〇、三	宅地並工場及建物敷地	三三、三	三三、三	變地類及地目換	三三、三
地目變換	一、四八、七	二五、九	道路鐵道軌道河川及水路敷地	三三、三	三三、三	其他	三三、三
埋立及干拓	一、七、七	三三、三		三三、三	三三、三		三三、三

となり、以上の外田畑相互間に於ける移動面積は田を畑としたもの五反歩、畑を田としたもの十一町八反歩である。次に耕地面積を郡市別に觀れば稻敷郡二萬三千五百六町三反が首位を占め、新治郡の二萬二千二百二十五町六反歩、東茨

城郡二萬一千二百七十六町三反の順で、其の他は孰れも二萬町歩以下であり、水戸市及び日立市を除き多賀郡の六千三百四十四町八反歩が最少である。郡市別の内譯は左の通り。

郡市別	年	末	現在	前年=比シ増減(△ハ減)	年内移動面積(増)
水戸	耕地	三、四、六反	三、三、二反	△一、四反	一、四反
日立	耕地	二、〇、三	三、七、八	△一、七反	一、七反
日	耕地	三、三、五	三、七、八	△一、四反	一、四反
水戸	耕地	三、四、六反	三、三、二反	△一、四反	一、四反
日立	耕地	二、〇、三	三、七、八	△一、七反	一、七反
日	耕地	三、三、五	三、七、八	△一、四反	一、四反

東茨城	三三、三六、三	七、一〇〇、八	一四、七四、五	三三、九	一七、二五	六、四	三〇、一	七〇、一	—	七〇、一	—
西茨城	一〇、三三、五	四、九六、一	五、四三、四	二八、二	△三、七	三〇、九	五〇、〇	—	—	三五、八	—
那珂	九、一〇、三〇	五、六四、七	三、三六、三	三三、八	二〇、六	三三、二	四九、三	〇、七	—	三六、六	—
久慈	三、九一、九	六、四九、三	七、四三、六	八三、六	六、四	三三、二	三〇、一	—	—	一九、五	—
多賀	六、三四、八	三、六八、〇	二、七六、八	△四、五	三、八	△七、三	四、五	—	—	二六、三	—
鹿島	一七、五九、九	六、五七、四	二、九二、五	二八、九	三、三	二八、六	三三、九	—	—	七五、〇	—
行方	二、一〇〇、六	六、三三、五	四、六七、一	九四、五	一四、七	七九、八	一〇〇、一	—	—	五、六	—
稲敷	三、五八、三	二、八四、三	九、六九、〇	三二、七	七、七	九四、〇	二六、〇	—	—	三三、八	—
新治	三、二五、六	九、四六、一	三、六九、五	九七、六	九、七	八七、九	二四、九	—	—	八、五	—
筑波	一五、八八、二	七、一八、四	八、六三、八	一〇〇、七	八、〇	九三、七	一五、四	—	—	二〇、二	—
眞壁	一九、六七、七	九、五七、六	一〇、二六一	三六、四	四、七	八四、七	八六、八	—	—	二四	—
結城	六、八九、〇	六、三三、七	一〇、一〇、三	一〇七、九	九、三	九八、六	一一四、九	—	—	六、五	—
猿島	一七、一〇〇、九	四、五七、三	三、四三、六	二九、〇	四、三	一九、七	二七、六	—	—	一七、〇	—
北相馬	八、九七、一	四、八九、七	三、八九、四	六、七	四、三	一三、四	一六、〇	—	—	九、三	—
合計	三三、三四、〇	九、七〇、六	一七、五三、四	一七八、〇	五四、三	一、三六、七	二、三六、〇	—	—	四四、九	—

蒟蒻芋、實棉、薄荷

縣下昨年の生産額

縣下に於ける昭和十四年中の蒟蒻芋、實棉、薄荷の生産額は

種類	作付反別	收量	價額
蒟蒻芋	八〇三、二反	一、一七三、五四貫	一、四三四、四六圓

實棉 三六、三
薄荷 一七、七〇
一、一七、九〇

で前年に比較すれば數量に於て蒟蒻芋十四萬五千三百二十二貫、實棉二萬七千三百三十一貫、薄荷四千二百十四貫を又價額に於て蒟蒻芋五十五萬七千二百二十二圓、實棉十萬一千二百一圓、薄荷三千圓を孰れも増加した。

果樹の收穫高

總額九十四萬圓

昭和十四年度中に於ける梨、リンゴ、柿、干柿、ブドウの樹數、收穫高、價額は

種類	樹數	收穫高	價額
梨	三四、七二本	一、八五、三二貫	六四、五九圓
リンゴ	一、一三	三、八三	三、三〇圓
柿	二五、四七	八五、四四	三〇、八六
干柿	—	三、四三	四、九九
ブドウ	二七、二四	一四、四七	六、〇八
計	—	—	九六、八六

で、昭和十四年度中に於ける是等果實の收穫狀況は、八月四日縣下を襲つた、大暴雨の被害は、梨園に於けるもの、柿の實の振り落されたもの、ブドウの樹の枯死したもの、其の損害は甚大だったが、是等生産價額は一般に價格の高騰せる爲、前年に比し約二十一萬圓増加し九十三萬九千八百四十六圓を示した。

縣統計課員異動

二月二十二日付で本縣統計課員中左の如く異動があつた

(統計課)屬 塚本 正 毅

經濟部商工課勤務ヲ命ズ

- 統計主事補 山中 平 守
- (人事課)雇 中島 武 夫
- 任縣屬總務部統計課勤務ヲ命ズ
- (社兵課)雇 堀 江 啓 祐
- 任統計主事補總務部統計課勤務ヲ命ズ

農林省事務監査

統計事務監査の爲、去る二月十二日より五日間、互り農林省より農林屬兼統計官補森松孝作氏外三氏が來縣々統計課並に左記町村に就き監査を施行した。

眞壁郡中村、多賀郡高萩町、久慈郡袋田村、行方郡麻生町



紀元節の佳辰に

統計功勞者表彰

大臣賞九名、知事賞二名
三十九名に協會總裁賞

恒例による各種功勞者表彰式は二月十一日午前十時半から縣廳正廳に催された。皇紀二千六百年の意義深い紀元節の佳辰に當り光輝ある表彰を受けたものうち、多年統計事務にたづさはり功勞顯著なものとして選ばれた農林大臣賞七名、商工大臣賞二名に對し、吉永知事から記念品を傳達、知事賞二名に對しては表彰狀を授與し、清水谷總務部長から記念品を手交し、玄關前で記念撮影の後第一食堂で立食の饗應あり、午後一時散會したが右十一名に對しては縣統計協會から副賞とし

て額縁を贈つた。尚ほ表彰式に際し、縣統計協會總裁から授賞された統計事務績者三十七名の氏名の發表あり、各郡支部總會の際、表彰狀並に記念品が傳達される筈である。

多年統計事務ニ精勵シ其ノ效績顯著ナリ仍テ木杯壹組ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス
昭和十五年二月十一日
茨城縣知事從四位勳三等吉永時次

知事表彰

表彰狀 (各通)

鹿島郡徳宿村書記

高崎 淳惠

北相馬郡東文間村農林統計調査員

古田 政雄

輝く事蹟

鹿島郡徳宿村書記 高崎 淳惠

昭和四年三月徳宿村書記就職以來農林商工並ニ内務人口其ノ他各般ノ統計事務ヲ擔任一意専心統計趣旨ノ普及ニ調査ノ刷新改善ニ意ヲ用キ調査員ヲ指導督勵シテ縣制定ノ

取扱細則ニ基ク調査方法ヲ完全ニ實施スルト共ニ一面調査員ノ優遇ヲ圖リ以テ從來頗ル不振ナリシ統計事務ヲシテ全ク面目ヲ一新セシメ優秀ナル成績ヲ擧グルニ至リタルハ一ニ主任者ノ努力ノ結果ニ因ル。就職當時ニ於ケル同村ノ統計事務ハ全ク不振ニシテ調査員ノ如キモ有名無實ノ狀態ニ



高崎 淳惠 氏

アリシガ氏ハ統計ノ國家的重要調査ナルヲ自覺シ一般民ニ對シ機會アル毎ニ調査ノ趣旨目的ヲ諒解セシムルト共ニ毎月村報ヲ發行シテ統計調査ニ依ル事項ヲ登載各戸ニ配付スル等絶エズ統計思想ノ普及宣傳ニ努メ又調査員ニ對シテハ各種ノ調査期毎ニ打合協議ヲ行ヒ、懇切ニ指導ヲ加フル一面調査員ノ優遇ヲ圖リ、從來調査員手當ノ如キ極メテ僅少ナリシヲ遺憾トシ、再三ニ互リ當

局ニ増額方ヲ要望シタル結果遂ニ統計調査ノ重要性ヲ認識スルニ至リ増額ノ實現ヲ見ルニ至リタリ、尙調査員ヲシテ優良町村統計事務ヲ視察セシメ、採長補短實ヲ擧グルニ努ムル等終始一貫統計ノ改善進歩ニ努力シツ、アリ。又統計ノ利用等ニモ意ヲ用キ昭和十一年經濟更生村トシテ指定セラレ之ガ計畫樹立ノ爲、基本調査ヲ實施スルニ當リテハ整備セラル統計ノ資料ヲ活用シ、尙昭和十四年一月全村教育綜合品評會ヲ行フニ當リテモ該統計ヲ基礎トシテ、審査ヲ爲ス等常ニ統計ノ利用ニ努メツ、アリ。

北相馬郡東文間村農林統計調査員

古田 政雄

昭和四年六月同村第一區農林商工統計調査員ヲ命セラレ以來引續キ熱心ニ調査ニ從事シ、常ニ正確ナル資料ノ蒐集ニ努メツ、アリ、又其ノ間區長、消防部長ノ公職ニ就任シ公共ノ爲ニ盡ス所尠カラズ地方ニ於ケル信望厚シ。

同氏ハ就任以前ヨリ統計ニ趣味ヲ有シツ、アリシヲ以テ調査員ニ任命セラル、ヤ直ニ農林商工統計取扱細則ノ研究ヲ爲シ、統計



古田 政雄 氏

調査員打合會ニハ卒先シテ出席シ、役場主

任者ノ命ヲ守リ、先ツ受持耕地ノ作付反別調査原簿ヲ加除整理シテ耕地圖トノ一致ヲ計リ、熱心ニ耕地一筆毎ニ精密ナル調査ヲナスト共ニ集計表モ期限内ニ提出シ其ノ内容亦正確ナリ、一反歩收穫高決定ノ際ハ自己ノ調査シタル意見ヲ述べ正確ナル決定ノ協力ニ努メ、又各種ノ調査臺帳調査票、補助票ヲモ綿密ニ作成シ常ニ刷新改善ノ要アルヲ認め、之ガ研究ヲ怠ラズ其ノ考案宜シキヲ得、直ニ之ヲ農産物ノ増産ト農家經濟ノ各方面ニ利用シテ農家ヲ指導スル一面統計思想ノ普及ニ供シツ、アリ、尙平素良ク新聞雜誌ヲ購讀シテ統計ノ知識ノ取得ニ努ムル等實ニ嘆賞スベキ点甚ク多ク他調査員ノ模範トスルニ足ル。

農林大臣選奨

選奨狀(各通)

木杯一組 多賀郡高萩町書記

沼田 至之

木杯一個 眞壁郡下妻町書記

小澤 訓一

同 久慈郡金砂村書記

會澤 孝

同 那珂郡戸多村調査員

小田部 仙太郎

同 新治郡美並村調査員

小野 透

同 日立市調査員

大和田 源男

同 稻敷郡柴崎村調査員

大竹 文治

多年農林統計調査ニ從事シ精勵
恪勤常ニ研鑽ニ努メ以テ農林統
計ノ改善刷新ニ貢獻シタル功績

顯著ナリ將來一層奮勵以テ本調
査ノ實績向上ニ盡瘁アランコト
ヲ望ム

右選奨シ頭書一組(一箇)ヲ授與ス

昭和十五年二月十一日

農林大臣從三位勳二等 島田俊雄

努力の跡

多賀郡高萩町書記

沼田 至之

大正十四年四月、高萩町書記拜命産業統計
事務ヲ擔任シ、以來統計ノ重要性ヲ認識シ



氏之至田沼

調査ノ正確ヲ期スベク常ニ調査方法ノ改善

統計思想ノ普及調査員ノ指導優遇ニ心ヲ致
シ、着々之ヲ實現シ耕地五百町歩調査員十
六人ヲ擁スル大區域ナルニ各調査員擧ツテ
統制アル調査ヲ實施シ、而モ優秀ナル成績
ヲ収メツ、アルハ終始一貫氏ノ獻身の努力
ニ依ルモノニシテ他ノ模範ナリ。

即チ各調査期ニ當リテハ調査實施前必ズ調
査員打合會ヲ開催シテ、調査上ノ諸注意ヲ
與フルト共ニ實地調査ニ際シテハ日割ヲ定
メテ各調査區ニ臨ミ指導督勵ヲ爲シ、又作
柄ニテハ識別困難ナル梗、糯ノ別、大麥、
稗麥ノ別等ノ如ク或ハ農作物被害等ノ調査
ニ當リテハ耕作人ヲシテ現地ニ標識ヲ樹立
セシメ、調査ノ正確ヲ期シ、又調査員ニ對
シテハ精神、物質兩方面ヨリ優遇ヲ圖リ又
統計思想ノ普及發達ニ資スル爲、毎年町勢
要覽ヲ刊行スル外重要農産物ニ付テハ其ノ
都度速報ヲ發行シテ各關係ノ向ヘ配付シ、
報告期限ノ如キ未ダ之ヲ失シタルコトナシ

眞壁郡下妻町書記

小澤 訓一

昭和六年一月下妻町書記拜命農林商工統計
事務ノ外庶務警防ノ事務ヲモ擔任シ、寡黙

統計事務ノ改善刷新ヲ圖リツ、アリ、氏就
職當時ハ調査方法モ單ニ形式的ニ過ギザリ
シガ統計事務ヲ擔任スルヤ、先ヅ調査員ノ
素質向上ヲ期シテ一部ヲ更迭セシメ諸規定
ノ研究ヲナシ、調査様式等工夫ヲ凝シ、諸
帳簿ヲ完備シ調査員ノ指導訓練ニ力ヲ致シ
調査員ノ實地調査ニ際シテハ自ラ之ニ臨ミ
懇切ニ指導ヲ爲シ、調査諸用紙等ヲ印刷シ
テ調査ノ便ヲ與フルニ努メタル結果其ノ面



氏一訓澤小

目ヲ一新シ、現今ニ於テハ各種臺帳ハ勿論
調査材料ノ内容正確ニテ報告期限モ嚴守セ
ラレ調査員會ノ出席等ニ所期ノ目的ヲ達成
スルコトヲ得タリ。

又統計思想ノ普及ニ付テハ小學校ニ養鶏、
養兔ノ調査ヲ委囑シ以テ生キタル教材タラ
シメ兒童ヲ通シテ、一般家庭ヘノ認識ヲ深

ムルト共ニ各種ノ協議會、懇談會等ニハ統
計ノ利用ヲ圖リ思想普及ノ一助ヲラシメツ
、アリ。

又縣統計協會眞壁郡支部設置セララルヤ、
之ガ幹事ニ選任セラレ各種ノ事業ヲ計畫シ
郡内各町村主任ヲ指導シ、會ノ圓滿ナル向
上發展ニ努メツ、アルヲ以テ信望篤シ、尙
昭和十年國勢調査ニ於テハ縣ノ囑託トシテ
検査事務ニ從事シ優秀ナル成績ヲ擧ゲ、昭
和十一年ニハ縣ヨリ統計功勞者トシテ表彰
セラル、等功績顯著ナリ。

久慈郡金砂村書記

會澤 孝

昭和四年十月統計事務ヲ擔任以來精勵今日



氏孝澤會

ニ至ル、氏ハ性溫良ニシテ忠實、犧牲的精

神深ク、特ニ統計事務ニ趣味ヲ有シ之ガ刷
新改善ニ全力ヲ盡シ、調査票、集計表、原
簿等ニ付テハ絶エズ考案工夫ヲ凝シ、調査
員ヲ指導誘掖シテ基本調査ノ正確ヲ期スル
ト共ニ報告期限ノ恪守ニ努メ諸帳簿、材料
等ノ保存極メテ整然トシ、事務ノ向上ヲ圖
リツ、アリ。

那珂郡戸多村農林統計調査員

小田部 仙太郎

大正十四年四月同村統計調査員ヲ囑託セラ
レ、以來各種ノ統計調査ニ從事シ常ニ統計
調査ノ重要ナルヲ意識シテ調査徹底ヲ念願
トシテ正確ナル資料ノ蒐集ト統計思想ノ普及
トニ力ヲ致シ他區ニ比シ著シク廣汎ナル
地域ヲ擔當シ居ルニ拘ラズ、完全ナル調査
ヲ行ヒ、殊ニ米生産統計調査ノ如キハ坪刈
實施ノ方法竝ニ基準票ノ交換等實ニ正確明
瞭ニシテ且報告期限ノ如キ會テ遅延シタル

コトナク協議會等ニ於テハ自己ノ體驗ニ基



小野仙部太郎氏

ク意見ヲ披瀝シテ調査方法ノ刷新改善ニ努ムル等其ノ功績偉大ナリ。

尙同氏ハ農事改良委員穀物受檢組合長、煙草耕作惣代、納稅組合長等ノ要職ニ在リテ常ニ村民ノ信望厚ク、機會アル毎ニ統計調査ノ趣旨目的ノ理解ニ努メツ、アルヲ以テ現在ニ於テハ區民ニシテ、調査ノ趣旨ヲ解セザルモノナキニ至ル、如斯終始一貫統計調査ノ徹底ヲ期スベク猷身的ノ努力ヲ咨マザルガ如キ誠ニ推賞ニ値ス。

新治郡美並村農林統計調査員

小野 透

大正十年七月、本村統計調査員ニ選任セラレ、ヤ、以來熱心ニ統計事務ノ刷新向上ニ

努メツ、現今ニ至ル。

氏ハ就任以前ヨリ統計ニ趣味ヲ有セシガ、就任ト共ニ益々其ノ才能ヲ培養シ、直ニ縣制定ノ農林商工統計報告規則ノ研究ヲナシ諸帳簿ノ整理ニ努メ耕地ト耕地圖ノ一致ヲ圖リ、耕地一筆毎ニ調査ヲ行ヒ調査ノ正確ヲ期スルハ勿論耕地以外ノ諸調査ニ付テモ役場主任者ノ命ヲ奉ジテ熱心ニ調査シ、且



小野 逸 氏

餘暇ヲ利用シテハ區内ヲ常ニ巡回シテ細大洩レナク雜記帳又ハ調査員手簿ニ記入シ、調査ノ參考資料ニ供シ正確ヲ期シツ、アリ且報告期限ニ付テモ他ノ調査員ニ先シテ期限内ニ正確ナル資料ヲ提供シ調査員會ニハ一回ノ欠席モナク出席シ役場主任ノ命ニ從フノミナラズ、意見ヲ披瀝シテ之ガ改善ニ努メツ、アリ、又氏ハ統計ノ重要性ヲ認

識シ、之ガ改善改善整備ヲ圖ルト共ニ正確ナル資料ヲ蒐集スルニハ區民ノ理解アル協力ニ依ルヲ最モ大切トシ、幸ニ各種名譽職ヲ兼ネルヲ利用シ、機會アル毎ニ統計ノ重要性並ニ利用方法等ヲ力説シ、又絶エズ精農家ヲ訪問シ調査ノ資料ヲ求メタル結果、現今ニ於テハ區民モ之ニ趣味ヲ有シ統計ヲ理解シ正確ナル申告ヲナスト共ニ自ら調査ヲ爲シ、參考資料ヲ提供セラル、様ニナリタル等其ノ功績顯著ナルモノアリ。

日上市農林統計調査員

大和田 源 男

大正十年九月農商務統計調査員トシテ囑託以來今日ニ至ル十八年餘ノ久シキニ亙リ、



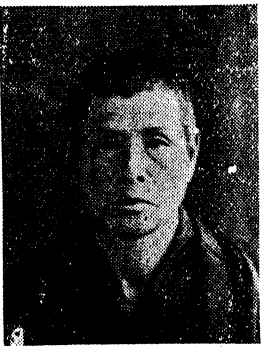
大和田源男氏

稻敷郡柴崎村農林統計調査員

大竹 文 治

大正十一年六月同村第七區長ニ當選ト共ニ統計調査員ヲ命ゼラレ農林商工及米生産統計調査ニ從事ス。

同村ニ於テハ年數回調査員打合會ヲ開催シ



大竹文治氏

調査上ニ關スル協議ヲ爲スヲ以テ毎回之ニ出席スルノ外、從來報告期ニ先チ報告用紙ニ詳細ナル注意書ヲ添付シ、調査ヲ命ズルヲ例トシ現在ニ於テモ林産、工産、畜産ノ調査ニ於テハ實行シツ、アルガ、常ニ研究ヲ怠ラズ理論ト實際トノ一致ニ努メツ、アル結果其ノ内容特ニ良好ナリ。

昭和四年ヨリ實施ノ小票ニ依ル作付反別ノ調査及昭和八年ヨリ實施ノ米生統計調査ニ

於テハ作付反別調査原簿及耕地圖ノ作製並ニ之ガ加除整理ヲ行ヒ耕地一筆毎ニ細密ナル調査ヲ爲シ、殊ニ米生統計調査ノ一段歩汚穢高ノ調査ニ際シテハ、坪刈其ノ他ニ慎重ナル注意ヲ等ヒ、調査ノ基礎ニ過誤ナカラシムルヲ期シ其ノ製表、集計ニ於テモ誤算等ナク其ノ調査頗ル正確ナリ、家禽、養蠶ニアリテモ縣制定ノ調査方法ニ基キ各戸毎ニ訊問調査ヲ行ヒ、又調査方法定メナキ調査ニ於テモ各戸毎ニ實地巡回ノ上調査シツ、アリ。

報告期限ニアリテモ常ニ他ノ調査員ニ先ノジ、一回タリトモ其ノ期ヲ遅延シタルコトナク書類ノ整理保存亦良好ナリ。統計思想ノ普及ニ就テハ正確ナル調査ヲナスニハ各區民ノ協力ニ依ルヲ第一トシ巡回調査ノ都度統計ノ重要性ヲ説明シ又ハ各種會合ノ機會ヲ捉ヘ思想ノ普及徹底ニ努メツ、アリ。

.....X.....

.....X.....

專業農家トシテ繁多ナル業務ノ傍良ク精密ナル調査ト迅速ナル報告トニ意ヲ配リ、殊ニ昭和三年縣取扱細則制定セラレ、ヤ主任者指導ノ下ニ先シテ、此ノ調査方法ヲ完全ニ實施スルト共ニ、機會アル毎ニ區内農家ヲ訪レ統計ノ重要性ヲ力説シ或ハ耕作地ヲ巡回シテ良ク統計調査ノ實際ヲ現地ニ於テ説明スル等凡ユル手段ヲ以テ統計認識ヲ深ムルコトニ最善ヲ盡シ、氏ノ家庭ハ無人ニシテ、農事ハ常ニ他ニ後レ勝チナルニモ拘ラズ各季ノ調査時期ニ於テハ減私奉公ニ就クノ犧牲的精神ヲ發揮シテ子供ヲ背負ヒテ一筆毎ニ孜々トシテ統計ノ基礎ヲ作り上ゲ居ル姿ヲ見ルコト屢々ナリ。

尙役場ニ於テ開催スル調査員會議ノ如キ殆ンド欠席シタルコトナク、自己調査ノ體驗ニ基キ他調査員ヲ指導誘掖スル所尠ナカラナシ、如斯終始一貫統計ノ國家的重要ナルヲ認識シテ十年一日ノ如ク、黙々トシテ之ニ從事シ地方ノ信望ヲ集メ、私事ヲ顧ミズ一意統計報國ノ念願ニ向テ努力ヲ咨マザル熱心サハ誠ニ他ノ模範タリ。

商工大臣選奨

選奨狀 (各通)

結城郡結城町書記

海老原 眞三郎

水戸市調査員

室 伏 三之介

右者多年商工統計調査事務ニ從事シ其シ其ノ功績著ナリ
仍テ茲ニ選奨シ賞杯一組ヲ授與ス

昭和十五年二月十一日

商工大臣從三位勳三等 藤原銀次郎

事蹟は輝く

結城町書記 海老原眞三郎

大正七年五月町書記ヲ拜命、爾來二十一年九月ヶ月ノ久シキニ亘リ商工統計事務ヲ擔

加除ヲ怠ラズ、又一面統計思想ノ普及ニ努メ其ノ重要性ヲ強調シテ正確ナル申告ヲ自發的ニ爲サムルコトニ馴致セシムル等其ノ功績顯著ナリ、尙同人ハ責任感最モ旺盛ニシテ永年ニ亘ル任期中調査員打合せ等ニ會テ欠席シタルコトナク又關係諸法規ノ研究ヲ怠ラズ、報告期限ノ如キ之ヲ失シタルコトナシ。

總裁表彰

表彰狀 (各通)

職氏名

多年統計事務ニ精勵シ其ノ功績顯著ナリ仍テ記念品ヲ贈呈シ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和十五年二月十一日

茨城縣統計協會總裁
茨城縣知事從四位勳三等 吉永時次

水戸市農林統計調査員

和知 忠恒

東茨城郡小川町書記

高野 林藏

任ス
就職當時ニ於ケル同町ノ統計事務ハ何等見ルベキモノナカリシガ、氏ハ統計調査ノ國家的重要ナルコトヲ認識シ、大正十年農商務統計報告規則取扱細則制定セラルルヤ、卒先調査員ヲ囑託シテ之ガ指導訓練ニ意ヲ用キ、隨時調査員ヲ招集シテ調査上ニ就キ



海老原眞三郎氏

指示注意ヲ與フルト共ニ一般民衆ニ當業者ニ對シテハ機會アル毎ニ調査ノ趣旨目的ノ普及徹底ヲ圖リ、統計ハ課税ノ標準等ニハ絕對ニ利用セザルコトヲ熱心ニ力説シタル結果今日ニ於テハ町民ニシテ調査ノ趣旨ヲ理解セザルモノナキニ至リタル状態ナリ、又毎年提出シツ、アル工場並ニ會社票ノ如キハ其ノ正確ヲ期スル爲、先ツ當業者ヨリ

控分ヲ提出セシメ之ヲ審査シ不審ノ廉ハ懇切ニ指導ノ上訂正セシメタル上本書ヲ作成セシメ、アルヲ以テ内容極テ正確ナリ、尙報告期限ニ付テモ常ニ意ヲ拂ヒ居ルヲ以テ會テ督促等受ケタルコトナシ如斯終始一貫商工統計ノ刷新改善ニ貢獻シタル功績顯著ナリ。

水戸市商工統計調査員

室 伏 三之介

大正十五年四月商工統計調査員囑託以來良ク統計ノ重要性ヲ認識シ、常ニ犧牲的精神ヲ以テ調査ニ從事シ調査ノ適確ヲ期スル爲



室伏三之介氏

擔當調査區内ニ於ケル各種別ノ調査原簿ヲ考案作成シテ、調査對象ノ異動ニ注意シテ

東茨城郡稻荷村農林統計調査員

鈴木 眞一

東茨城郡長岡村農林統計調査員

市毛 幹之介

東茨城郡鯉淵村農林統計調査員

藤枝 春吉

西茨城郡東那珂村書記

宮崎 唯一郎

那珂郡上野村書記

萩谷 爲之

那珂郡大宮町農林統計調査員

勳八等 和田 繁雄

那珂郡碓氷村農林統計調査員

河野 梅吉

久慈郡太田町書記

滑川 敬之介

久慈郡黒澤村農林統計調査員

勳八等 飯村 健次郎

久慈郡世喜村農林統計調査員

木村 彦八

久慈郡山田村農林統計調査員

和田 耕

多賀郡平湯町書記

鈴木 知明

多賀郡楢形村農林統計調査員

伊師 萬之介

鹿島郡大谷村書記

豐田 保行

鹿島郡息柄村農林統計調査員

立花 嘉平

行方郡行方村書記

河須崎 肇

行方郡麻生町農林統計調査員

山口 政衛

稻敷郡長戸村書記

岡野 富之助

稻敷郡朝日村農林統計調査員

吉田 耕平

稻敷郡長竿村農林統計調査員

時田 明

新治郡直鍋町書記

勳八等 松延 貢

新治郡石岡町農林統計調査員

小野 贊雄

新治郡山ノ莊村農林統計調査員

赤根 貞之助

新治郡七會村農林統計調査員

沼田 虎之助

- 筑波郡小張村書記 山口素信
- 筑波郡菅間村農林統計調査員 古字田英一
- 眞壁郡嘉田生崎村書記 渡邊源一郎
- 眞壁郡下妻町農林統計調査員 萩原喜三郎
- 眞壁郡河内村農林統計調査員 藤倉亮一
- 猿島郡五霞村書記 小野寺繁藏
- 猿島郡香掛村農林統計調査員 勸八等 木村眞一郎
- 北相馬郡布川町書記 石塚莊作
- 北相馬郡高井村農林統計調査員 飯島新藏
- 結城郡石下町書記 勸八等 山田至豊
- 結城郡宗道村農林統計調査員 齋藤豊之助

表彰された感激

重大なる責任を痛感

不肖曩に本縣統計協會總裁閣下より表彰の光榮に浴し、今亦茲に意義深き紀元二千六百年の佳節に農林大臣閣下より

り、統計事務功績者として選奨せらるゝなどとは夢にも思つて居なかつた。聖代に生れた難有さは布衣の一賤農にもかゝる御恩澤の及んだことは只々感謝感激の極みであると同時に又一層その責任の重且つ大なるを痛感する次第であります。

是皆統計主任村吏員の御指導各調査員諸君の御援助の賜と深く感謝する次第であります。今や吾帝國は新東亞建設の聖戦に皇軍は支那全土の五分の二以上の地を席捲し膺懲の手を下して居ります。然し我帝國の正しき立場を理解し得ない國々は彼の頑迷なる蔣介石を援助しつゝありますから此事變が短日月に終止するものとは思はれません、而して武力戦に次ぐに經濟戦であることは云ふまでもないことです。此の經濟戦に欠くべからざる要素は吾統計事務なのでありますことを認識しなければなりません。銃後を護る國民の一員として統計の完璧を期し、老軀に堪つて此の榮譽を失墜せざる様統計報國に懸命の努力を惜しまない覺悟であります。

表彰をうけて

北相馬郡東間村農林統計調査員 古田政雄

世界に比類なき國體に、光輝ある聖代に生を享け、日々恙なく天職に従事せらるゝを深く感謝して居ります。新東亞建設の大事業に國家の總力を擧げて奮闘して居るの時、自分も農業報國の一念に生産力擴充に向つて微力を致して居らるゝを幸福と存じます。農林統計調査員拜命以來、命に依つて仕事を致して居りますが、なかゝに自分の思ふ様な成績を擧げ得られず、社會の成長につれて世の複雑性が増大するばかりで種々なる調査が日を追ふて加はります。これでは専任でもなくては、

此の責任ある事業の適確なる遂行は困難ではないかと痛感する事が幾度あつたこととせう。それでも主任の方や、同僚の皆様の懇切なる指導と援助とに依つて、只今迄大なる過失もなく仕事が出来た様になりました。そののみか刷れるにつれて興味を添え一つの趣味的事務として處理する事を得て楽しく報告書の作成が出来た様になりました。今回圖らずも縣南の一隅より選ばれて、光輝ある紀元二千六百年の紀元節の佳き日に縣表彰としての榮譽を擔ひ、誠に恐懼に堪へない次第です。皆様の後援に依つて爲すべきを爲したるに過ぎず、只我一人光榮に浴しては自己の幸福餘りに過ぎたるの感を覺えまして。一村の成績は、又一調査

員の成績は全体が協力一致打つて一丸とならねば、完全なるものにならぬ事は言ふ迄もありません、自分一人が光榮を獨占すべきでなく、全体の光榮と考へねばなりません。正應に於ける長官閣下手づからの表彰状授與式に參列して嚴かなる式場内の光景、榮譽に輝ける受賞者の顔合せ、我が胸の轟き、一種云ふに言はれざる雰囲気にも包まれて忘れられぬ感激に打たれました。長官閣下始め高官の方々との記念撮影、そして特別に統計課長殿始め係員の諸賢との記念撮影、感激は益々強く胸を打つ、統計課を訪づれば課員皆様の祝詞を賜はり協會よりは記念品を贈與せられ受賞者一同の欣然たる様を見て我が様も斯くやと思はれました

実績向上に邁進

新治郡美並村 小野透

光輝ある紀元二千六百年の極めて意義深き紀元節の佳節に當り、不肖淺學非才の身を以て不掃も統計事務に對し功績顯著なるの故を以て農林大臣閣下より選奨せられ而も今上陛下御臨幸あらせられたる縣正廳に於て各種表彰式並に是れが傳達式の擧式に列する事を得ましたことは誠に身に

餘る光榮と存じ、只管感激に堪へざる次第であります。これ偏に本村統計主任の熱心なる御指導と調査員の皆様並に調査區民の理解ある御援助の賜でありまして此の榮譽は私のみ功績ではありません、深く皆様の熱烈なる御庇護の賜として感激に堪へざる次第であります。

惟ふに統計事務は國家各種の施設計畫の基本資料にして殊に東洋永遠の平和建設に邁進しつゝある此の時、大切な基本資料を提供する吾等の責任の重大なる事を痛感し、今後一段と奮勵努力し、益々複雑化する本調査の實績向上に精進し以て本日の榮譽に報いる覺悟であります。

終りに佳節當日は課長殿始め統計課の皆様が何かと親切

に御世話下されましたことに對し、重ねて深甚の謝意を捧げる次第であります。

光榮に感謝して

日立市農林統計調査員
大和田源男

光輝ある紀元二千六百年梅の佳節に際し不肖農林大臣閣下より統計事務功績者として選奨せられ、正廳に於て之が傳達の舉式に列席し得ましたことは、身に餘る光榮で只感謝感激に堪へざる次第なり。之皆課長殿初め、縣市指導者各位の賜なり、是れ同志調査員諸氏の協力に依るものなり重ねて茲に謹んで深く御禮申上ります。先に沼田君、遠藤君二氏の大賞選奨に次で小生の身に至りたるは、本市の榮譽にして實に欣快の至りに堪へ

ず、願れば非才の身を以て重責を負ひ永年勤続し平素においてただ主任の指導を体し、只季節的統計事務に従事するのみ何等功績なき故に受賞に對し微力を恥づる感深き次第なり。今や多難の秋、國家の基礎に思をとどめ、微力を捧げんとする信念をいだき、知事閣下の訓辭に従ひ一層農林統計事務に努力し以て受彰の一端にそう覺悟なり。

一層努力せん

高萩町統計主任

沼田 至之

皇紀二千六百年の佳節に際し、圖らずも農林大臣閣下より選奨の光榮に浴し、誠に恐縮して居るもので御座います。私は唯長い年月統計主任として其の職席を穢し來つたとい

ふのみで何等見るべきものなかりしに斯様の光榮に浴されました事は上局の懇切なる御指導御鞭撻に依るは勿論調査員各位の献身的努力の賜と實に有難く感謝感激致して居ります。

統計作業の完全なる發達の道は之より多々あるも要は調査機關の整備充實と完全なる活動、殊に統計調査員の水も漏さぬ活動に依りて初めて其の目的を達し得るものと信じます。

今や時局は未曾有の難局に際會し、國家の總力を擧げて之が處理に邁進しつゝある秋統計の使命は愈々其の重大性を加へて來りました。吾々は今回の榮譽に際し益々責任の重大性を認識すると共に猶一段と奮勵努力し、より以上の

成績を擧げ以て統計報國の赤誠を捧げる覺悟で御座います

責任を痛感

結城郡結城町書記

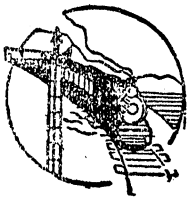
海老原眞三郎

意義深き皇紀二千六百年の紀元の佳節に當り統計事務功績者として商工大臣閣下より選奨の恩典に浴しました事は誠に身に餘る光榮と存じ感激に堪へません。

惟ふに統計事務は國家社會に對する各般の施設計畫の基礎となるものでありまして其の正否は國運の消長に至大の關係を有するものなる事は今更言を俟たざる所でありますが、斯る重大使命を有する統計事務に従事し居るもの益々其の責任の重大なるを痛感すると共に統計事務向上の爲今後一層研鑽統計の刷新改善に力し今回の光榮を空くせざらん事を期する覺悟であります。

贈圖書

北海道統計	北海道統計協會	商工省統計表	商工大臣官房統計課
臺灣事情	臺灣總督府	勞働統計書	內閣統計局
統計時報	德島縣	上毛の力	群馬縣統計協會
統計速報	佐賀縣	兵庫統計	兵庫縣統計協會
織物産額月報	商工大臣官房統計課	統計雜誌	東京府統計協會
統計研究會誌	京都府統計研究會	建築統計月報	商工大臣官房調査課
宮城統計誌	宮城縣統計協會	會社統計速報	大阪府統計課
統計	高知縣統計協會	統計書第四編	鳥取縣
市町村別生産額一覽	群馬縣統計課	トウケイ	鳥取縣統計協會
岩手の統計	岩手縣統計協會	島根の統計	島根縣統計協會
統計時報	秋田縣統計協會	農林統計月報	農林省統計課
統計	二月號	千葉縣統計協會	神奈川縣
浪花の鏡		大阪府統計協會	



統計(各)地(雑)信

統計事務打合せ

統計事務刷新改善に關する協議會を二月二十三日茨城會館内教育會々議室に開催、午前十時、郡司統計課長の挨拶に引続き左記事項を附議し午後二時三十分終了した。協議事項及び出席者左記の通り

一、協議事項

- イ、重要農作物調査速報並ニ各種豫想收穫高收購高調査方法統一ノ件
- ロ、商工統計報告規則廢止ニ依リ之ガ縣及ビ市町村ニ及ボス生産高調査ニ於テノ對策
- ハ、市町村一覽用紙作成ノ件

ニ、統計協會ノ事業ニ於テ改善ヲ要スベキ点

二、出席者職氏名

- (水戸市書記) 關信、(日立市書記) 戸祭正
- (上大野村助役) 横須賀孝太、(実戸町助役) 友部勝雄、(鹽田村書記) 岡崎輝吉、(賀美村同) 助川國勝、(高萩町同) 沼田至之、(諏訪村助役) 酒井守衛、(武田村書記) 小貫三郎、(柴崎村同) 油原真、(美並村同) 松澤乾、(眞瀬村同) 宇津野竹雄、(中村同) 小島千之丞、(水海道町同) 小島久一郎、(古河町同) 森茂衛門、(高鈴村助役) 飯岡光

那珂郡西部統計事務研究会

那珂郡西部統計事務研究会は二月十七日靜村役場樓上に於て開催され、縣より高島屬が出席した。午前十時半開會、最初に統計事務功勞者として優良統計調査員及び小瀬村書記橋本信雄氏の表彰式を舉行し、岡崎會長より賞状並に賞品の傳達を行ひ杉山靜村長及び高島屬の祝詞あり閉會した、十八日は前日に引続き統計事務に付種々協議をし散會した。

久慈郡西部統計事務研究会

去る二月五日久慈郡西部統計事務研究会を同部袋田村役場に開催、縣より松井屬が出席した、午前十時袋田村助役栗原幸之介氏の挨拶あり、續いて松井屬より商業調査並に工業調査の方法に就て詳細説明あり、熱心に研究する處あつて散會した。出席者左記の通り

- 藤田書記(大子町) 益子書記(依上村)
- 益子書記(生瀬村) 近津書記(宮川村)
- 益子書記(黒澤村) 矢田部書記(佐原村)

高林書記(上小川村) 栗原助役、藤田書記(袋田村) 會澤書記(諸富野村) (下小川村欠席)

久慈郡南部統計事務研究会

去る二月十五日、十六日の二日間久慈郡南部統計事務研究会を同郡佐都村役場に於て開催し十六日縣より松井屬が出席した。午前九時半佐都村助役西野哲次郎氏の挨拶あり、續いて松井屬より商業調査並に工業調査の方法に就て詳細説明あり、尙ほ調査票記入上に付て質疑應答をなし、調査票の内容査閲を行ひ不備の点を夫々是正し午後二時半閉會した、出席者左記の通り。

- 小祝(久慈郡町長會幹事) 滑川書記(太田町) 鈴木書記(久慈町) 井上書記(坂本村) 江幡書記(世矢村) 片野書記(東小澤村) 高野書記(西小澤村) 岡田書記(幸久村) 天木書記(佐竹村) 助川書記(郡戸村) 島根書記(久米村) 和田書記(山田村) 神書記(譽田村) 豊田書記(河内村) 西野助役、

渡邊書記(佐都村) 磯初村欠席)

筑波郡中部商工業調査互審會

今年より始めて調査することになつた商業、工業調査規則に依る調査書類の完璧を期する意味に於て筑波郡中部統計事務研究会に於ては二月十日午前九時四十分より葛城村役場に於て互審

統計調査員異動

(上ノ新任括弧内ハ舊)

昭和拾五年一月拾三日	精城郡宗道村
奇木 多 開	(飯塚 靜夫)
全 一月二拾日	行方郡武田村
出久根 博	(出久根 市彌)
全 一月六日	西茨城郡岩瀬町
仁平 農夫也	(仁平 克知)
全 一月拾日	稻敷郡岡田村
池田 忠志	(谷口 重雄)
下村 日光司	(諸岡 竹治)